令和４年１１月伊勢原市教育委員会定例会議事録

１　開催日時
　令和４年１１月２２日（火）午前９時３０分から午前９時５０分まで

２　開催場所
　市役所　３階　第２委員会室

３　教育長及び委員

教育長	山口　賢人
委　員（教育長職務代理者）	菅原　順子
委　員	渡辺　正美
委　員	福田　雅宏
委　員	濱田　光子

４　説明のために出席した職員等

教育部長	大山　剛
学校教育担当部長	濱田　保
歴史文化推進担当部長 （兼）歴史文化担当課長	立花　実
参事（兼）教育総務課長	熊澤　信一
参事（兼）学校教育課長	守屋　康弘
教育指導課長	嶋本　信之
教育センター所長	須永　尚世
参事（兼）社会教育課長	山内　温子
図書館・子ども科学館長	杉山　麻里

５　会議書記
　教育総務課主事　　髙坂　麻里

６　傍聴人
　０人

７　議事日程
　日程第１　前回議事録の承認
　日程第２　教育長報告
　日程第３　教育委員報告

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－－－

午前９時３０分　　開会

○教育長【山口賢人】　　おはようございます。定刻となりましたので、ただいまから教育委員会議を開催いたします。

議事に入ります前に、教育総務課長から資料の確認をお願いします。

○参事（兼）教育総務課長【熊澤信一】　　（資料確認）

○教育長【山口賢人】　　皆さん、よろしいでしょうか。

○教育長及び委員全員　　（了承）

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－－－

日程第１　前回議事録の承認

○教育長【山口賢人】　　それでは日程第１「前回議事録の承認」について、お願いします。

○教育長及び委員全員　　承認

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－－－

日程第２　教育長報告

○教育長【山口賢人】　　続きまして日程第２「教育長報告」になります。本日は１件です。よろしくお願いします。

○学校教育担当部長【濱田保】　　それではよろしくお願いします。資料１を御覧ください。令和４年度全国学力・学習状況調査の伊勢原市の調査結果についてでございます。

伊勢原市では、児童生徒の学力や学習状況に関し、継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、文部科学省平成４年度全国学力・学習状況調査を小学６年生及び中学３年生を対象に、４月１９日に実施いたしました。

内容につきましては以前御説明させていただいておりますので、詳しい説明は割愛させていただきますが、教科に関する調査の結果につきましては、小中学校共に、国・県と比較してほぼ同程度の結果であったと認識しております。

２ページ以降には、結果の分析や活用について記載しております。改めて御確認ください。

調査結果及び分析につきましては、今後の学校での指導や、教育委員会の研修会等で活用を図ってまいりたいと考えております。

１１ページをおめくりください。１１ページの「家庭にお願いしたいこと」に関しましては、各校での保護者会等でぜひ伝えていただくよう要請をしております。

また、今回の全国学力・学習状況調査の内容につきましては、学校だより、あ

るいは保護者会、学校運営協議会等での周知を依頼してまいります。
　最後に、本資料につきましては、速やかに伊勢原市のホームページで公表する予定でございます。御承知おきください。
　報告は以上でございます。
○教育長【山口賢人】　　令和４年度全国学力・学習状況調査の伊勢原市の調査結果について報告が終わりましたが、何かこれについて御意見や御質問がありましたらお願いいたします。
　渡辺委員、お願いいたします。
○委員【渡辺正美】　　いわゆる子どもたちの学力というふうな点で、学力をどういうふうに捉えるかというような課題があろうかと思うんですけれども、その中で、大体、全国の平均値とほぼ同じものになっているということは、データのとおりであろうと思います。
　それから、いわゆる生活面でのいろいろなアンケートを見ても、それぞれの項目は全国とほぼ同じで、いじめの問題などは９割以上が課題だと、問題であるというふうに子どもたちは捉えているということや何かはこのグラフで分かるのですが、５ページの、地域や社会に関わる活動ということで、子どもたちが生活している空間でどのように関わりを持っているかということに関しては、やはり子どもたちが消極的といいますか、数値的には５割前後、５割を下回っているというようなことになるわけです。
　この辺のところは、１１ページのところに、最後に「家庭にお願いしたいこと」いう中の大きな４項目めに、ボランティア活動や地域の行事に一緒に参加しましょうという呼びかけを、あえてここではしている。そして具体的な例も挙げているんですけれども、先ほどの５ページのデータなどとも関連して、やはり子どもたちの発達段階もありますので、強制というのはなかなかできないことだとは思うんですけど、ここに書いてありますような市民総ぐるみとか、公民館まつりとか、防災のこと、地区の体育祭のことなどは、特定の行事が行われる前に積極的に子どもたちに情報提供していくということが、結局、学校と家庭、地域が連携して子どもたちを育てるということに、かなり深く関わってくるんじゃないかと思うので、ぜひ学校のほうからも積極的に、特定の行事の前に情報提供していくということが、今後望まれることなのではないかなというふうに思います。
　以上です。
○教育長【山口賢人】　　ありがとうございました。
　今のことについては、何かほかに御意見、補足や何やらありますか。
　濱田委員。
○委員【濱田光子】　　もともと、親も地元で育った方々というのは、情報の回り方が、今の私どもは、回覧板があって、あとはごみ出しに行って立ち話をしたりして情報を得られることができました。今は新聞を取らない若い世帯も多いものですから、市の広報も積極的に見ないと自分の手元には届かないとなると、地域の情報を得られる方法は、お子さんがいる家庭はやっぱり学校からの伝達というのも一つなのでしょう。学校も多分、先生からの口でどこまで言っていらっしゃるか。ポスターを貼ることで呼びかけはしましたよということになってしまう

と、子どもたちがどこまで見ているかなという部分があると。
　ただ、先生方に、日頃の生活指導も勉強の指導も大変な中に、一つ、一言、今度の日曜日に何が、地域のイベントがあるからみんな行ってみようね、という言葉をかけることぐらいだったら、多分負担はないと思うのですけれども、なかなか、ふだんやるべきことがたくさんある中で、その辺を期待できるかどうか分からないですけど､やっぱり学校でお子さんたちに伝えていただけることがないと、若い親御さんは情報をもらうところがないので。
　ＬＩＮＥで今、全部連絡網はつながっているとはいうのですけれども、それがＬＩＮＥで流れるのか、公民館まつりがありますよということが流れるのかどうか分からないのですけれども、やっぱり地域の情報を学校が伝える役割って、前よりも何かあるような気がするものです。新聞を取らない家庭、回覧板も、自治会に入らない家庭、子ども会もない家庭というのが、私の地元のところに結構あるものですから、そうすると、この前の体力づくりに出たときも、うちの地区ですけれども、３世帯ぐらいしか若いお子さんがいる世帯が出てこない。あとはみんな年寄りばっかりなんですよね。
　なので、もっともっと、そういうところへ来ることで、ここにこれだけ小さい子がいて、声かけすればいいんだねというのが、日頃、交通当番で立っていらっしゃる方々は把握していらっしゃると思うんですけれども、働いていらっしゃるような、熟年世代の方々からすると、お子さんがどこにどのぐらいいるかというのが正直なところ分からないものですから、こんなに子どもたちが毎日生活している場が私たちの周りにあるということの認識が、あることを知るためにも、何かその地域の行事がありますよということを伝達する方法というのが、やっぱりいま一つ、一言、先生の声かけもあれば伝わるのかなというのを感じてはいるのですが。
○教育長【山口賢人】　　ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。
　今年度、全１４校でコミュニティ・スクールを設置したわけですけれど、ある意味、これまでの学校は、学校の先生たちが子どもたちを見る場というような基本的な考えが、学校の職員にもありますし、地域の方にも、もちろん保護者の方にもあるんですけれど、子どもたちは「学校の子ども」という捉えではなくて、「地域の子ども」という捉えを、そのコミュニティ・スクールの取組を進める中で、みんなで持っていけるといいなと思っています。
　学校においても、先生だけが子どもの教育をやるのではなくて、地域の方々も入れるところは入っていただいて、一緒に子どもたちの教育をする、そういう学校づくりをするということを進めていきたいなと思っています。地域行事などの情報も、そういうことに絡めて発信ができていくといいなというふうに思っています。
　この件はよろしいでしょうか。ほかに何か御意見や御質問あったらお願いいたします。
　よろしいですか。
　では、ないようですので次に進みたいと思います。

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－－

日程第３　教育委員報告

○教育長【山口賢人】　　続きまして日程第３「教育委員報告」になります。
令和４年度神奈川県市町村教育委員会連合会研修会について、菅原委員から報告をお願いいたします。
○委員【菅原順子】　　１１月１８日の午後、茅ヶ崎市文化会館小ホールで行われた令和４年度神奈川県市町村教育委員会連合会研修会に参加し、教育社会学を研究されてこられた國學院大學・佐賀大学名誉教授、新富康央先生より、「『支持待ち世代』の教育の在り方～」と題した講演を拝聴しました。
その内容につきましてはレジュメを配っていただきましたので、３ページを御覧ください。
教育現場での数多くの観察に基づく研究や、御自身のアメリカ留学時の小学生だったお子さんの現地校での経験などを土台に、日本の教育の特質や、昨今の子どもたちへの対応の仕方について、キーワードや比喩を提示しながらお話しくださいました。
その中で特に印象に残ったことを３つほど紹介します。
まず、講演の表題にある「支持待ち」ということなんですが、先生のいう「支持」とは指図の「指示」ではなく支えという意味の「支持」です。つまり「支持待ち」とは、求められる、必要とされる、大切にされることを待っているという意味です。
そのような子どもたちのクラスづくりの方策として、先生は「豆腐づくりではなく納豆づくり」という比喩を用いて、一人一人に自分の重さを実感させる重要性を話されました。
豆腐ではなく納豆というのは、一人一人が原型をとどめないまでにすり潰された均一の集団ではなく、一人一人が元の形を残しながら互いに引き合う関係という意味です。納豆の持つ、固定化していない、どのようにでも変形できる柔軟なイメージが、子どもの集団の好ましい姿を的確に表現していると思いました。
次に、日本の先生を表す「聖職」という言葉ですが、これは日本の学校が神社やお寺から始まったことに由来しているとのことです。
これらの場が、現在の公民館のように地域の文化活動や生活改善活動の場を兼ねていたことが、今でも特別活動や道徳、生徒指導などを担っている日本の教育の特異性につながっていると伺って、納得がいきました。
これに対して、息子さんが通ったアメリカの小学校では、休み時間の子どもの見守りはボランティアの保護者、キャンプの引率などは高校生ボランティア。ランチタイムには先生が職員室でランチを取り、その間、子どもは職員室からシャットアウトされるなど、日本とは対照的だったそうです。
先日、二宮の小学校のコミュニティ・スクールの実践例を伺う機会をいただきましたが、新富先生のお話と併せて、日本の教育の伝統やよさを尊重しながらも、コミュニティ・スクールの動きが、教育を全て学校任せにしてきた歴史に風穴を

開ける大きな一歩となるよう、真剣に考えなければならないと思いました。
　最後に、子育ての３つの「目」についてです。まず「見つめる目」、次に「見つける目」、そして「見まもる目」です。まず子どもの気持ちや行動を受け止めた上で、その背景の明確化を支援し、最後に自律を見守っていくという順番です。
　子どもが何かトラブルを起こしたとき、まず気持ちを受け止め、一人では言語化できないその気持ちをなぞった上で振り返りを行うという手順は、特別支援でも用いられていますが、それが子育て全般に通じ、最終的には自分で考える自立につながっていくという視点をいただき、これからも大切にしていきたいと思いました。
　以上です。
○教育長【山口賢人】　　ありがとうございました。
　ただいまの御報告について、何か御質問や御意見はありますでしょうか。感想でも結構です。
　よろしいですか。ありがとうございました。
　自分は、この新富先生のお話を伺って、教育委員が聞くのもいいんですけれど、現職の先生方とか、あるいは保護者の方、そういう方にぜひ聞いてもらえるといいなというお話だったと感じました。
　以上でございます。

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－

その他

○教育長【山口賢人】　　では、特にないようですので、「その他」に移りたいと思いますが、委員の皆様方から何かございますでしょうか。よろしいですか。
　事務局からは何かありますか。
　ないようですので、最後に来月の定例会の日程をお願いします。
○参事（兼）教育総務課長【熊澤信一】　　次回の定例会でございます。次回は１２月２０日の火曜日の午前９時３０分から、こちら議会の第２委員会室におきまして開催いたしますので、よろしくお願いします。
　以上でございます。
○教育長【山口賢人】　　それでは、本日の教育委員会議はこれをもって閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

－－－－－－－－－－－－－－－－　○　－－－－－－－－－－－－－－－－

午前９時５０分　　閉会